



【令和元年度 障サ協活動テーマ】  
障害者福祉をどう地域社会にアピールし、  
我が事として定着させるか。

障サ協  
広報紙

# 山口県障害福祉 サービス協議会通信

発行：山口県障害福祉サービス協議会 広報委員会 〒753-0072 山口市大手町9番6号  
電話：083-924-2799 FAX：083-924-2798 メール：syougai@yg-you-i-net.or.jp

## 新企画・会員事業所紹介（第1回）

### 障害福祉サービス事業所 光あけぼの園

#### 利用者が明るく働ける事業所をめざして

今回からスタートする会員事業所紹介では、広報委員が会員事業所を訪問し、支援現場の雰囲気に触れながら、職員や利用者との関わり、事業所の特色やアピール点、課題や悩み等についてお聞きしていきます。

第1回目の今回は、障害福祉サービス事業所光あけぼの園を御紹介します。

光あけぼの園は就労継続支援B型の事業所です。事業所の近くには、島田川が流れ小中学校、スーパーなどがある比較的街中にあります。

合言葉は「障がいのある人の働く、暮らすの充実」です。施設の作業として、帆布を使つたバッグを作るはんぷ工房

「結」と、草刈りや剪定、光市からの委託業務を中心とした便利屋事業を行っています。この度は、主に、はんぷ工房「結」（ゆい）について、

「結」が誕生した歴史から現在の取組まで取材してきました。

はんぷ工房「結」はもともと

と周南あけぼの園で実施されてきました。

利用者さんの中に、以前縫製工場での勤務経験があり、ミシンを使えるメンバーがおられたことをきっかけに、古布を使用した製品を作ること

にした手芸班がスタートでした。手芸品を職員の知り合いのお店で委託販売をしてもらっていました。障害福祉事業所で製作した商品というだけでは単価も売り上げも上がりません。試行錯誤を重ねるうちに、バッグ作りを一人から見直すことにし、「障害者が作ったことを売りにしないで、製品の価値で売れるものを作る」をコンセプトに素材を再検討した結果、家庭での縫製は難しく、一つの素材で有名になったバッグメーカーもあることから、「帆布」で勝負するようになりました。

製品化に向けては、岡山県倉敷市の織物工場で研修を行い、仕入先も確保しました。さらに、事業所名でなく、一つのブランドとして勝負するためにブランド名を付けました。「結」の誕生です。ブランドのロゴは、プロのデザイナーに依頼し、ブランドやデザインの向上を行いました。



はんぷ工房「結」のブランドのロゴ商品には、このデザインのタグが使用されている

こうした取組を進めるうちに、光市から周南あけぼの園への入園希望者も増え、周南あけぼの園の定員もいっぱいになってきたこともあり、平成24年1月に、光市木園に現在の光あけぼの園を開設しました。

当初はウエスの製作、草刈り等行っていました。周南あけぼの園の工房が手狭になっていたため、はんぷ工房「結」を光あけぼの園に移動することにしました。

この時点で、建物の構造から店が作れると判断し、地域でおしゃれなお店を手掛けているデザイナーに依頼、施設併設型の店舗が出来ることに



帆布バッグが所狭しと並ぶ、はんぷ工房「結」店舗の様子

こうして、オープニングイベントは無事開催することは出来ました。課題も多くありました。それは、イベント1日目で準備していたほとんどの商品が売れてしまい、2日目で降から

なり、「結」のロゴも新たに現在のものになりました。こうして、平成24年6月に「結」が光市へ移り、同年9月のショップオープンに合わせてオープニングイベントを開催することになりました。それまでに開催した2回のイベント経験を活かして、同法人の周南あけぼの園アトリennon（利用者さんで絵画や刺しゅうが好きなメンバーが創作活動をしているグループ）と協力して、企画、広報、会場のレイアウト、装飾を役割分担すると同時に、お客様の声を取り入れながら定番商品を追加し、新作バッグを含めた商品の製作を行いました。また、新しいロゴを入れたパンフレットを作成しました。